═準決勝═

札幌16―1足利

札幌	打	安	点
⑥高橋葉	4	1	1
④八重樫	4	1	1
4山中	1	1	1
⑦高橋一	3	3	0
③沢田	3	2	3
DH渡辺	2	2	3
HD細川	1	0	0
HD田中	1	0	0
②酒井	3	0	1
⑨8小野寺	4	3	3
⑤岡田	2	1	1
⑧鬼原	2	0	0
PH松尾	1	0	0
9三上	0	0	0
計	31	14	14

全足利	打	安	点
④牛窪	4	2	0
⑧小林宏	2	0	0
⑨臼井	3	1	1
DH亀田	4	0	0
③後藤	2	0	0
⑤小倉正	3	1	0
⑦小林邦	2	1	0
⑥塩島	2	0	0
PH長	1	0	0
②滝沢	3	1	0
計	26	6	1

	振	球	犠	盗	失
【札】	1	6	4	3	1
【足】	0	4	1	3	2

勝古崎　敗吉沢

	回	打	安	責
鹿野	4	17	2	0
古崎	3	14	4	1
吉沢	2⅔	15	5	5
相沢	4	24	8	7
市野塚	⅓	2	1	1

▽本塁打＝沢田1号（市野塚）▽二塁打＝山中、渡辺2、小野寺2

静岡8―5府中

静岡	打	安	点
④小長谷順	3	2	0
⑨中野	3	1	0
⑥小長谷和	4	2	1
⑤高塚	4	0	0
②宮城	5	2	0
DH井口	3	1	2
RD浅井	2	1	0
③岸田	3	2	2
⑦若月	3	0	0
⑧戸崎	2	1	1
計	32	12	6

府中	打	安	点
④恩田	4	1	2
⑥梶原	5	1	0
⑧田中	4	1	1
③市川	3	1	0
⑨谷田部	4	0	0
⑦小林	4	1	1
DH丸山	4	2	0
②山田	1	0	0
H2朝倉	2	1	1
⑤大槻	3	1	0
計	34	9	5

	振	球	犠	盗	失
【静】	0	6	5	1	1
【府】	2	2	2	0	4

勝石川　敗江本

	回	打	安	責
石川	9	38	9	5
城所	3⅓	16	6	2
岡田	2	11	1	1
江本	3⅔	17	5	1

▽本塁打＝岸田1号（城所）小林1号（石川）▽二塁打＝宮城、市川、田中、丸山、朝倉、浅井

クラブ選手権

═決　勝═

札幌8―14静岡

札幌	打	安	点
⑥高橋葉	5	1	0
④八重樫	5	3	0
⑦高橋一	4	2	1
③沢田	5	2	1
PR井ノ口	0	0	0
DH渡辺	3	1	1
2田中	1	0	0
PH細川	1	1	2
⑨1小野寺	4	0	0
PH高橋英	1	0	0
②酒井	2	0	0
PH山中	1	1	0
8三上	1	1	0
⑤岡田	4	3	2
⑧鬼原	2	1	0
H9松尾	2	0	0
計	41	16	7

静岡	打	安	点
④小長谷順	5	3	1
⑨中野	4	3	1
⑥小長谷和	6	3	1
⑤高塚	6	3	5
②宮城	3	3	2
③岸田	3	1	0
3伊藤	1	1	0
PH井上	1	0	0
3柳沢	0	0	0
DH若月	2	2	1
PD福島	3	0	0
⑦浅井	3	2	1
⑧戸崎	4	0	0
計	41	21	12

	振	球	犠	盗	失
【札】	3	0	1	1	3
【静】	2	4	4	3	1

勝石川　敗古崎

	回	打	安	責
石川	9	42	16	7
古崎	1⅔	12	5	1
中村	1⅓	11	7	6
鹿野	2	11	4	1
小野寺	3	15	5	2

▽二塁打＝細川、三上、小長谷順、小長谷和、高塚2、宮城、若月

創部9年

静岡ク初V

全日本クラブ選手権最終日

〈スポニチ後援〉

静岡硬式野球倶楽部が創部九年目にして初の王者に輝いた。第15回全日本クラブ野球選手権大会（日本野球連盟、毎日新聞社主催、スポーツニッポン新聞社後援）は九日、西武球場で準決勝、決勝の3試合を行った。決勝は昨年優勝の全足利クラブをコールドで下した札幌倶楽部と全府中倶楽部に快勝した静岡硬式野球倶楽部の対戦となり、静岡が乱打戦の末、14―8で逃げ切り初優勝を飾った。表彰式ではスポーツニッポン新聞社・石井経夫専務取締役から優勝メダルが静岡硬式倶楽部に贈られた。

1メートル62・エース石川、大健〝投〟

◇静岡硬式野球倶楽部初Vの跡◇

1回戦	4―1	ウィーンベースボール
2回戦	14―11	気仙沼クラブ
準々決勝	8―5	全府中クラブ
決勝	14―8	札幌倶楽部

どんなに打撃が良くても、投手がしっかりしないと野球にならない。ベースボールの基本を忠実に守った静岡が念願の日本一に輝いた。

4試合で37点を稼いだ打撃のチームにあって、ヒーローは1メートル62、68キロの小さなエース・石川しかいない。2回戦を除く3試合すべてに完投勝利。しかも準決勝、決勝の2試合を休憩なしで連続完投と豆タンクのような体で大車輪の投球だった。

「最初からボクで決めるつもりでした。おいしいところは自分でもらいたいからね」

決勝の札幌戦では連投の疲れも見せずに五回まで3安打無失点。10点差で迎えた六回に「相手とタイミングが合って」7安打を浴び、5失点も疲労度を考えれば決して責められない。

優勝監督の国松監督も「スタミナのある投手。最後まで任せていられた」と信頼を寄せる小さな大エース。「疲れたから打たれた、なんて言い訳はしたくない」と石川は初優勝に浮かれることなく気丈に言い放った。MVPのトロフィーは、そんな男によく似合っている。

（我満　晴朗）

▽決勝

札幌倶楽部（北海道）　000 005 012　8

静岡硬式野球倶楽部（中部）　302 412 02X　14

▽準決勝

札幌倶楽部（北海道）　216 210 4　16

全足利クラブ（関東）　000 000 1　1

静岡硬式野球倶楽部（中部）　011 120 012　8

全府中野球倶楽部（関東）　000 010 400　5

◇表彰選手▽最高殊勲選手　石川勝則（静岡）▽首位打者　岸田一郎（静岡）11打数6安打、打率・545▽敢闘賞　古崎睦（札幌）